

観音物語 (17) 苦しみの世間

しゅじょう ひ こん にやく む りょう く ひっしん かのんみょう ち りき のう く せ けん く
衆生被困厄 無量苦逼身 観音妙智力 能救世間苦

衆生困厄せられ 無量の苦 身に逼るとも 観音の妙智力は 能く世間の苦を救う

苦しきは偶然に起こるものではない。時間が経過し、因縁によって結果が現れてくる。突然のように起こる地震や事故も、徐々にぶつかり合う準備がなされ、そして突然のように起きる。因果なことだ。無知の悲しさである。

世間の世とは時間、間とは空間という意味がある。

つまり、世間苦とは、時間の経過によって起こってくる悩みごとであり、空間で出会う人物や物事との衝突である。人間関係のトラブルや離婚、倒産、病気など、そして突然の怪我や事故、天災も、すべて世間苦である。世の中には、苦しみや悩みの種がいっぱい植えられているから、縁に会えばいつでも芽が吹いてくる。

一生を平穏無事に生きていける人は最高の幸せ者だ。人生は悩みごとが変わるばかりで、心配もなく、無事で、のんびりと暮らせる日はほんのわずかでしかない。「無事これ貴人なり」とはよくいったものだ。家族全員が無事に過ごせるということは、稀なことであり、貴いことである。いろいろな悩みや苦しみが波になって押し寄せてくる。生きるということとは本当に大変なことだ。

指にトゲがさされば、その痛みは指先だけではない。全身の痛みとして感じる。これを「どうたいだいひ 同体大悲」という。大地震はその被災地だけの痛みではない。国民全体の痛みだから全国各地から救援の手が差し伸べられる。事故は当人だけの苦痛ではない。加害者も苦しみを受けねばならない。苦を与える者も、痛みを受ける人も、因縁である。

観音さまの慈悲は同体大悲である。母がわが子を心配するように、他人の苦しみを自分の苦しみとして感じるができるならば、あなたは観音さまである。

観音さまと一心同体になれば安心して歩くことができる。観音さまに合掌すれば、観音さまが私の手にぴったりと合わさってくださる。今の苦しみを観音さまに打ち明けてみよう。観音さまはその苦しみの原因を鏡のように照らしてくださるから…。

苦しみの原因を知ることが大切だ。

観音妙智力は闇に光を当てる智慧である。

原因が見えれば、光の方向へ歩くことだ。

いつまでも夜は続かない。